

第 1 回吹田市シティプロモーションアドバイザー会議の主な意見と市の考え方

(平成 30 年 6 月 28 日開催)

1 平成 30 年度シティプロモーション事業について

No	いただいたご意見	市の考え方
(1)	すいたんのグッズについて、スポット的に限定品を販売するのではなく、継続販売を検討してはどうか。	ポロシャツ等を一般販売できればとの思いもあるが、市が販売する場合は歳入歳出予算に計上するという予算上の制約があるので大量生産が困難。販売を事業者に担っていただければ可能となる。一方、限定生産によって希少性を持たせるといった利点がある。
(2)	今年度作成予定のシティプロモーション冊子について、市民向けということだが、市外から褒められることがまちへの愛着につながることもあり得る。市外へのPRを考えてもいいのでは。	市民向けだが、市民に改めて吹田市の魅力を伝える内容となるので、結果的に市外の人へのPRにもつながる冊子を作成予定。職員の市外出張時の配布物としても活用したい。
(3)	海外に向けて情報発信をしてもいいのでは。市内の留学生に絞って発信し、本人が母国で吹田市の良さをひろめてもらえれば素晴らしいプロモーションになると思う。	市内には 5 大学 1 研究機関があり留学生も多いことから、外国籍の人への視点は必要と考える。市内在住の留学生等、外国籍の人へのPRも検討していく。
(4)	幼児教育が大切。すいたんを活用して園児に吹田市の良さを広めていければよいのでは。	市の広報番組の取組として、今年 7 月まで、市内の保育園・幼稚園で園児と一緒にすいたんがすいたんダンスを踊り、その様子を番組で放送していた。今後もさまざまな取組を検討していく。
(5)	行政サービスの水準を維持するための歳入確保といった視点で、グッズ販売などを実施することも必要。	これまで、すいたんマスコット、シティプロモーションピンバッジを販売してきた。今後もさまざまなグッズ販売を検討していく。
(6)	インスタグラムで市内の見どころを紹介するなどSNSの活用はいい取組だと思うが、市内の見どころに見物人が集中することで周辺住民に迷惑がかかることも考えられる。マイナス面にも注意が必要。	見物人が集中して近隣住民に迷惑がかかることが予想される場所を把握し、情報発信する際は公共交通機関の利用の呼びかけや見物時のマナーの周知なども併せて発信していきたい。
(7)	シティプロモーション事業については単発に終わらずに長く継続的に取り組むという視点と、市外からどういう風に見られるかという視点が必要。	SNSでの発信やすいたん号の活用など継続的に取り組んでいる事業もあるが、今後も継続的な取組を広げていきたい。また、吹田市のシティプロモーションは基本的には市民向けだが、冊子やSNS等で情報発信することで結果的に市外へのPRにもつながると考えている。

2 市制施行 80 周年記念事業について

No	いただいたご意見	市の考え方
(1)	将来的に市の財産になるような施設を建設しては。市の魅力である、ガンバ大阪・太陽の塔・健都など関連施設でもいい。	80 周年記念事業については、担当人員の増員などを含めて推進体制を構築しているところ。今後は事業計画や予算計上を具体的に実施していくこととなるが、いただいたご意見を参考にして、市民から求められている事業はどのようなものなのかをしっかりと検討しながら進めていく。
(2)	「食」をテーマに、「吹田カレー」「吹田コロッケ」「吹田からあげ」等、吹田のご当地グルメを作っては。	
(3)	過去の映像を使って未来につながる映像コンテンツを作成してもいい。	
(4)	シティプロモーションビジョンに沿う事業を展開していかないとブレしてしまう。考えをしっかりと掘り下げて実施しないとただの周年事業になってしまう。	
(5)	市民にとって有益なことを考えなければならないと思う。お祭りにすることを市民が求めているのか。	
(6)	華々しいコンテンツにこだわらず、地道に地域で掃除している人など身近な人を取り上げて発信してもいいのでは。	
(7)	一般市民からすると 70 周年や 80 周年の存在を知らなかったので、情報発信をしっかりとすべき。	
(8)	最近希薄になってきたと感じる地域の結びつきを感じられるような、地域のイベントに力をいれてほしい。	
(9)	節目で振り返ることも大切なので、行政史のような記録は必要。	